

目的が達成できる場と機会を設定し活動させた。

②学級の問題や悩みを話し合わせ解決のよるこびを味わわせる。

③友情・親切・寛容などの道徳的価値について考えさせ、思いやりの態度を育てる。

(二) 家庭との連携

①学校や学級の教育目標について理解してもらう。

②S子の問題行動の概要及び心情について理解してもらう。

③S子の立ちなおりを目ざした援助・指導の内容と方法を理解してもらう。

(三) 校内の共通理解

現職教育を中心としてS子への指導方法を話し合い、共通実践に努めた。特に、女の先生方からは、女の子の心理に関する貴重な助言があり、大変役立つ。

(四) 外部機関等の助言指導の要請

S子への援助・指導を適確におこなうため、特に、学校医及び児童相談所の助言指導を求めた。児童相談所には、担任と父親が出むき大変お世話になった。

III 実践のまとめ

一 実践の成果

S子に対して、前期(四～九月)には特別活動の領域を中心に活動の場と機会を設定するなどの援助・指導をお

資料3 S子への援助・指導の実践例(指導記録より)

月・日	指導の場	援助・指導の主な内容	S子の行動・態度等(様子・変容)
12/5(木)	学級会活動・S子 帰りの会・全員	○学級会集会活動への参加をととして集団での活動の場を与え、活動の楽しさと集団への寄与の満足感を感得させる。 ○学級会活動がよくできたことを賞賛する	○授業参観者の前で、自分の役割(出し物と司会進行)をはたす。集会活動では活発な行動と明るい表情がみられた。 ○記念の写真撮影でも集団の中にはいって楽しそうな表情がみられた。 ○日記に「楽しくできたと思う、司会はまちがったが多かったが私はがんばってやった。今度、また集会をやりたい」と書いた。
12/6(金)	職員室・全職員	○現職教育でS子の最近の様子について報告説明をする。今後の指導方法について話し合い助言を求める。	○一日中、ぼんやりし一点をじっとみつめ考え事をしている表情がめだつた。 ○「自分が悪く、みんなに迷惑をかけることが多かった」と話す表情に以前のような深刻さがみられなくなった。
12/7(土)	教室・S子	○放課後S子と雑談をまじえ、この一週間について話し合う。	○自分の部屋にこもっていることが多かったとのこと。あまり干渉しないで見守るようにしたので何をしていたかはわからなかったとのこと。 ○明るい返事がかえってきた。昨日は一日中本を読んでもうすぐ話すと話す
12/9(月)	S子宅・母親 朝・S子	○昨日(日曜日)のS子の様子について電話で話し合う。 ○教室に早くいき登校してきたS子に「おはよう」のあいさつをおくる。	

資料4 S子の日記

今日は先生から手紙がきました。とってうれしかった。今までに一ばんうれしかった。先生ありがとうございます。これをもとに一生活けんめいがんばっていきたいと思います。これは、はげみになりました。本当にありがとうございます。これからも、いろいろなめんでがんばります。ありがとうございます。

こなつてきた。しかし、S子は、教師の意図する望ましい変容をみせなかつた。そこで、後期をむかえてからは、今までの指導を反省し、ただ形式的に活動の場と機会を設定するだけでなく、教育相談や日常生活での語りかけなどを中心に内面的な心情の理解に努めてきた。更に、教師と保護者が児童相談所の助言指導などをもとに真剣になつて対策を話し合ったところから次第に望ましい変容をみせ、劣等感や自信喪失に苦しみ悩む言動が少なくなった。S子は、今年の四月中学校へ進学したが、夏休みには、中学校生活を書きつづけた日記をもつて担任を訪ねてきた。その後も時々近況を知らせてくれている。S子の日記や手紙からは、S子が自分なりの目標をもつて生活していることが感じとれる。(資料4)

S子は、今年の秋、町でおこなわれた意見発表に参加し「生きる」ということについて考えを発表した。

S子からの手紙

先生こんにちは元気ですか?2学期になつてもうだいぶたちます。先生うれいしことをおつたえします。水泳で平泳ぎ二百メートルおよげました。バツクもやつと25メートルおよげ2級になりました。それとね、きのう九月六日にやったマラソン大会、かんそうしたよ、かんそうした時はとつてもうれしかったです。今年のマラソン大会は小学校の時よりつかれなかつた。びりの方というのをはなさないけどかんそうしたのほうれしかったです。先生にも見せてやりたかつた。いろいろありましたが自分としてはよくできましたと思います。もうみんな元気だよ、Kさんも明るいし、みんなとしゃべるし、私ももうN子ちゃんといつしよに毎日あそんでいます。先生もおげんきです。

二 今後の課題

この実践では、前半の援助・指導でS子を変容させることができなかった。それは、(S子に活動の場と機会を与えれば問題は解決される)という見通しのあまさがあったからだ。たしかに、児童が活動できる場と機会を確保してやることは大切であるがそれが形式的になつてしまつたところに問題がある。今後は、児童の心深くまでふれ、児童と共に問題を解決していく指導のあり方を研究したい。また、問題の発生を未然に防ぐ指導も課題である。S子の場合、学習指導で確かな基礎学力を身につけさせる授業にもっと力を注いでいけば、あるいは、問題の発生を防ぐことができたかもしれないと考えるのである。